

あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会

会長 竹之下 洲一

編集者 広報部 玉利 良一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498 始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553

「越前(重富)・加治木島津家墓所」が国史跡に!!

竹之内 茂



「越前島津家の紹隆寺墓地」

江戸時代、鹿児島藩(薩摩藩)を治めた大名の鹿児島藩主島津家(島津宗家)と、一門家と呼ぶ藩主親族家の越前・加治木・垂水・今和泉の各島津家、一所持の宮之城島津家の合計6家7箇所の墓所が国の史跡に指定されます。

鹿児島島津家墓所の特徴は、宗家墓所では墓碑に山川石を用いて最大規模の宝篋印塔を採用しています。宗家以外では山川石は用いず、宗家よりも規模の小さな宝篋印塔や五輪塔・石廟等の形態の墓碑を採用しており、宗家を頂点にした階層性が反映されています。一方で墓石の配置・形態などでは、各墓所でそれぞれ特色があり、独自性があります。

各島津家墓所は国持大名や有力家臣としての威厳と風格を備えており、規模が大きく往時の状況を今に残しているため、貴重な史跡として国の史跡に指定されます。本市では、越前(重富)島津家墓所と2箇所ある加治木島津家墓所の計3か所が指定されます。

- ① 越前(重富)島津家墓所は平松の紹隆寺墓地にあります。石柵で囲まれた墓域内には墓碑が35基あり、うち当主墓は7基です。供養塔など、総数121基の石造物が遺存します。
- ② 一つ目の加治木島津家墓所は、日木山黒川の能仁寺墓地にあります。墓碑が41基あり、うち当主墓は9基です。灯籠・供養塔・六地藏塔など、総数117基の石造物が遺存します。
- ③ もう一つの加治木島津家墓所は、木田西之原の長年寺墓地にあります。墓碑が29基、うち当主墓は1基のみです。灯籠・供養塔など、総数61基の石造物が遺存します。墓地の中央には島津都美の供養碑(亀趺碑)があり、地元では亀墓の名で親しまれています。



「加治木島津家の能仁寺墓地」



「加治木島津家の長年寺墓地」

メンバーの知識向上を目的として、「近隣市町史跡研修」「ガイド実践研修」「(外部講師による) 全体研修」を毎年1回開催していますが、今年度の「近隣市町史跡研修」は鹿児島市の郡山地区において、令和元年10月10日実施しました。当日は当地区の「ふるさとを学ぶ会」のご協力をいただき、天候にも恵まれ有意義な研修となりました。当研修に参加のメンバーに、印象に残った史跡についての原稿を依頼しました。

花尾神社の主神・丹後の局の墓

濱口 純則



花尾神社の創建は建保6年(1218)と伝えられています。神社の正面に向かって右側の墓石群の中にひと際目立つ立派な多宝塔があります。これは、島津家初代^{ただひさ}忠久を出産したといわれる丹後局の墓であり、丸に十の字と局の神号^{たんのつぼね}あかにみつるひめのみこと丹瓊御統媛命・安貞元年(1227)の刻字があります。宝永5年(1708)に周りを石垣で囲う工事を行った時、安貞元年と彫られたのではないかという説があります。右隣にある通称「御苔石」^{おこけいし}の石塔が本来の墓ではなかったかと推測されます。局が、降りしきる雨の中(これに因んで慶事に降る雨を「島津雨」^{しまづあめ}と呼ぶようになったといわれています)、忠久を大阪の住吉神社の石の上で出産された時大変安産だった事から、この御苔石の苔を安産のお守りとして持ち帰る人が多いといわれています。苔を^{むし}筆られる度に地下の局は^{ほほえ}微笑んでいることでしょう。

隠れ念仏洞「かくれガマ」について

梅田眞次

花尾隠れ念仏洞は、花尾山の^{すそづた}裾伝いの道路から約200m登った杉木立の中にある天然の岩穴で、入口の高さ約1.4m、奥行き約4m、横幅が8mあり、畳8畳の広さがあります。

鹿児島藩は、江戸時代に一向宗(浄土真宗)を禁制にしました。明治9年(1876)、県が一向宗を含めて「信教の自由」を認めるまで約300年にわたって弾圧を受けました。藩の禁制のため、信仰している人たちが疑いを持たれると、捕えられ白状するまで激しい^{ごうもん}拷問を受けました。その間、地域の信者はこの隠れ念仏洞で信仰を守り続けてきました。



鹿児島では洞窟のことを「ガマ」といっていますが、集落のはずれや山の中の人目に付きにくいガマ(このようなガマを「かくれガマ」といいます)で深夜密かにローソクの光に浮かび上がったご本尊を囲み、^{ほうえつ}法悦の時を過ごす姿が^{しの}偲ばれます。

島津義弘公没後四百年記念特別展 「島津義弘」 閉幕

会場入口



展示内容は、実物118、パネル174、模型7、計280点です。黎明館・吹上歴史資料館・名護屋城博物館・加治木島津家・加治木郷土館の協力をいただきました。

1. 義弘の初陣コーナー



2. 三州統一と義弘



3. 義弘ゆかりの居城



4. 秀吉の太閤検地



5. 文禄慶長の役と義弘



(黎明館寄託品)

6. 島津義弘の佩刀朝鮮兼光



(黎明館寄託品、個人蔵)

7. 虎の骨



(個人蔵)

8. 帖佐八幡と三十六歌仙額



(帖佐八幡神社所蔵、歴史館寄託)

額の奉納者には義弘の家族である宰相公や娘の御屋地様・御下様をはじめ、側近である江夏友賢や星山仲次の名があります。

9. 義弘の家臣たち



新納旅庵墓・赤塚家系図などを紹介しました。

義弘ゆかりの山城跡紹介

岩剣城跡と日当比良陣跡（島津方）を表示し、他に蒲生城跡・松坂城跡・北村城跡・菱刈陣跡の縄張図及び赤色立体図をパネル展示しました。



特別展島津義弘記念講演会

演題 関ヶ原合戦と島津義弘
 会場 始良市始良公民館大ホール
 日時 令和元年11月16日(土)
 講演者 山本博文教授 受講者 約350名
 内容 義弘は窮地にあっても常に武士としての筋目を冷静に考



えて行動し、結果として後世の島津家の礎を築くことができた

木津志の石橋(アーチ橋)

松下 澄行



木津志の集落内には、木津志トンネルを挟んで東側に東川、西に上脇川・堂園川と、離れた所に檜の木川が流れ、下流で合流して木津志川となり、さらに蒲生後郷川に合流しています。この川に7つの石橋(アーチ型)が架けられています。東川に架かっているのが下段橋と木津志橋、上脇川・堂園川に小川内橋・向江橋・有村橋・青木迫橋があり、檜の木川には檜の木橋があります。

ただし、有村橋と青木迫橋の橋はわかりませんが、現在使用されていないため橋の周辺には雑木・雑草が生い茂り、橋の現状を撮影できません。

これら多数の橋は、大正初期から昭和前期に架けられています。こんな山間部になぜこれだけの橋が架けられたのか詳しいことはわかっていません。しかし、集落内には石切場があり、すぐれた石工がいて、その下で地元住民たちが全員の通行の便を願って架橋されたものと推測されます。

<後世に伝えるお手伝い>

吉田 茂子

平成19年「始良歴史ボランティア協会」が活動を始めて、今年で13年となりました。

要請に応じて市内の史跡をガイドさせていただくのが目的です。必要な資料などは会員自ら現地を探訪したり書籍を調べて作成し、ガイドに活かしたりしています。

3年前からは、市教育委員会編「始良市文化

財ガイドブック」の作成のお手伝いを始め、一昨年「加治木地区」、昨年「帖佐・重富地区」が刊行されました。近々第3弾となる「蒲生・木津志・北山・山田地区」が刊行される予定となっています。

中世から近世の遠い昔の^{いと}なみや出来事が刻まれた石碑などを探し記録に残す作業です。時とともに風化し忘れ去られたもの、自然災害などで押し流されたりしたものの欠片から、歴史と物語を探し求めてゆきます。時には地元の方々の力強くたくましいご協力のおかげで、埋もれかけた歴史の一端が^{よみがえ}蘇ってくることも経験しました。このようにしながら、歴史は後世に伝えられてゆくものだと実感しています。



この5月には、「歴史ガイド養成講座」が新しく始められる予定です。歴史好きの方、生涯学習を望まれる方は是非ご参加ください。始良市は県内随一の文化財数を誇り、ご活躍の場は十分確保されています。

編集後記

令和元年の「今年の漢字」は、「令」が選ばれました。清水寺の管長が堂々と描かれる姿が報じられましたが、どんな感想をお持ちでしたか。私たちにとっても、「義弘公没後400年」に関連してとても忙しく充実した1年でした。

令和の2年目となる今年は、新型コロナウイルス騒動で始まりましたが、「東京オリンピック・パラリンピック」に加え、「鹿児島国体」が実施される予定です。明るく安心して過ごせる年であって欲しいと祈らずにはられません。